

○印
A B C D E F

点を提出しました

学生番号 氏名
8245 大和田 夏菜

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。」とあり、
クリスタールの世界

一行目 草原 でしょうか。辺り一面草が生えています。しかも枯れていてみずみずしさ
が全く感じられません。さわやかな感じがしてそうでもなく、暑
い、なんだか寒さを感じます。遠くの方に建物が幾つもあり、その
うち大きめのものは家のほいで。そしてこの女性は一とでも細身な
様な気がします。今にも立ち上がって走りだそうとする感じもしま
す。通ったのでしょうか。それとも意識が戻ったとたんに分界の
場所に移動していてパニックになっているのでしょうか。ひくま、全体
的に退廃している様な雰囲気が、少しさびしいような、悲しいような
そんな感じがします。女性がっらそうで見ている側もだんだんっら
なってきます。「今にも立ち上がって走りだそうとする感じ」と前述しま
した。やっぱり細くて力を入れるにも難しそうです。となると、残
りではうしかないのでしょうか。もしかして下半身が動かさなくて手
だけ移動させて家に向かっているのでしょうか。(これは腕の細さが
説得力無さそう...)。でも行く(して家に向かっている)のはどうしてなの
かと思います。誰か家族の会合に行くのでしょうか。
(動画を見て) 草原、というが、丘だったのですね。丘の音が聞こえますね。
それに女性は足が不自然な人ですね。...ますますっらなくなりました。
家も高々と住んでいるところだから、さびしい、行って行くのですね。
もう、「帰りたい」という声が聞こえてきそうです。でも向かっ
ている家って、空の家になっているの(した)か。おとしたらすぐく
痛む絵ではないですか。まは、こちらの気持ちまで「家」が
帰ってきます。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月 4日

○印

図 A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8230 氏名 小山崎みらい

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。 **課題**

カイトカ 孤独 / クリスマスの世界 (アトリエ・アエス)

広すぎる土地、そこにすわり込む1人の女性奥にたたずむ4軒の住まい、うちこぢか
としていなく、色も赤みをおびた似類の色ばかり、全体的に色あも、うす暗く、鮮やか
さがたりず物の少なさ、色合い、服、家のふんいきが全体的に寂しすぎる印象を受けた。
この絵に映っている女性は、この広げんとすわって歩もある事ができない、一人ぼっち、
助けも来ない、誰にも気がかかれない、といったあたりに孤独であるように感じた。
大地にある4軒の家も人気がなく誰も住んではいないのではないだろうか?と
感じさせる草も短く枯れきみ下、更に静かさを感ずる。家の敷地内と思われぬ所は草すらも
はえていないのは少々気になる。あえて情報量を少なくしているようにも見える。

VTR感想

丘の上だと聞いて、家の敷地と予想を以てた場所の草が丸みをおび
ていて坂になっている事に気がついた。この絵画は彼女目線になる事が
できる作品で、彼女の力強さ、下半身が麻痺していた実存する女性を
背景、光景は多岐にわたるモデルと作るものを自身のハロウィンにて
飾られたという事で多少感じていた。生かしか、た何が"か"この絵画から
伝わってきた事がわかった。絵画でありながらも生きていような生命
感を感じられる一枚。私が初めて見た感想として「あゆみ、さみ
しさを感じさせる作品」という点が一致した。下半身を麻痺して、
身体は不自由な状態、そんな中でも一生懸命にのぼろうとする
クリスティーナ自身のその行動自覚にも生命力を感じているのかもしれない。
シンプルな構図にある事に対して含められている意味は重たく、
極くほんとはいわれている表現はせんさいでいい、とてもキャッチに味わ
いの深い作品だと思った。そしてこの少女は幸甚に生涯をすごして17
ほいと感じた。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日 6月4日

○印
A B C D E F

4 点を提出しました

学生番号 氏名
8276 廣森真悠

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

追う女

一行目 横たわる女の人の髪のなびき加減や服のシワがリアルで少し怖いなという印象を受けました。奥にある家を目指して這って進む絵に見えて、作者に闇がありそうだな... と思いました。全体的に色味が少なく空も曇っていて重苦しい絵だなと思いました。女の人を自分に見立てて、何かを伝えようとしているのかもかもしれないな... とも感じました。這っているのは足が悪かったからなのか... と言われなきゃ分からないなと思います。時々不思議に思うのですが、言われなきゃ分からないような情報を絵に入れても、見る人は分からないんじゃないかと... ワイエスさんは緻密に繊細に描く作風ということなので女性のリアルさにも繋がっているんだと分かりました。人物を1人だけ描くという所も作品としてリアルで見やすく好きだなと感じました。何気ない風景を絵に出来るというのは観察する力があるからだと思うし、それが全ての作品に出ているんだと思います。引きこもりで独学で学んだワイエスはあまり外に出なかつた分、1つのものを見てリアルに描くという能力が身についたのかなと推測しました。

○印
A **B** C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8228 氏名 半田 泰一

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
追い出された女

一行目

写実的な絵画である。草原の中に建つ家を、地面に倒れながら見上げる女が描かれている。目がいくのは女と家だ。まず女を見て、それから女が向いている方向にある家を見る。見た人は、女と家の関係性に思いをはせる。

女はその後どうするのか。倒れ伏していたところから起き上がっているように見える。そこから立ち上がって家に歩いていくかもしれない。あるいは家に背を向けて立ち去るのかもしれない。どちらになるのかはわからない。だが女はどうしてこのような状況に巻き込まれているのだろう。

女が自らこの場に来たとは思えない。気が付いたらこの場にいる。あるいは不本意ながらもこの場にいる、といったように見える。自分は女が誰かに連れて来られたものだと思っただ。家からこの場へ。連れてきたのは家の主人であり、女は家の住人の一人であった。しかし、主人の気をそねて追い出されてしまった。そして生まれたこの絵は男尊女卑、あるいはパフハウを象徴する風刺をもったものだと思っただ。

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8237 氏名 佐々木 佑真

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

遺棄

前々から美術感想文の絵の中で一番気になっていた絵で、最初に気になったのかこの手前に座りこんでいる女性の人か何故か家の方向を見ているのか、疑問に思った。外も別に青空じゃなく雲り空のように見えるし、何も無い人もいない野原で何故この人は座りこんでいるのだらうと思った。勝手な妄想だけど、この人は遠くの方にある家の使用人的な人で、何か大きなミスをおかして追いだされてしまったのかな、とも考えた。周りになにもなくて、女性がただ遠くの家を見ているだけなのにちょっと不気味さを感じる(絵全体の彩度が暗めだから?)

そして、この場所は都会のよつに建物かベンチがあるようには見えないし、遠くの家屋根の造りを見ると外国の建物、ほいからここは外国の農家とかなのかな?と思った。美術感想文の6枚の絵の中では一番好き。合っているかはわからないけど、なんとなくこの絵のストーリーがよみやすい気がする。暗めの彩度も少し不気味だけど、千か千かした明るい色を使っているように見ていて安心する感じもある。

あと、「追いだされた」という風に考えるとこの女性がとてもかわいそうに見える。これから先、どう生きていくのだらうというところまで妄想してしまう。草の色を見ると夏の若い緑でもなく、ちょっとかかれ?のように見えるので季節は秋あたりかな?と思ったけど、女性はまた半袖なので夏と秋の間あたり...? タイトルはわからなかった。

○印
A **B** C D E F

6 点を採出しました

学生番号 8239 氏名
坂本 晃基

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記入する。
タイトル
「痛苦」 = 「草原の孤独」

一行目 . 解説を聞く前の感想

女性が広い野原で遠くを歩いている絵。この絵は見えるものを描いた女性と、遠くにはボツボツと見える5軒の家。ほとんど絶望的で不幸感を覚える作品である。観覧者を不幸な気持ちにさせるという点では、更に優れた作品である。女性は何故、地を這って歩いているのだろうか。痛苦、苦しみ、悲しみ、どうしようもないくらい緊張感を感じさせる絵である。その苦しみから逃れるために、女性は家に向かって遠くを歩いているのだろうか。むしろ、この絵画が、作者の気持ちを表現した一枚ならば、もっと、作者は心の奪われを探求しているのではなかろうか。私の考察ではあるが、家は安心、平和、気持ちの安堵のメカニズムのたらい。

. 解説を聞いた後の感想

彼の作品には、よく、体がズレて動かない女性“クリスタール”が描かれているようだ。この絵は彼女が動かない体を必死に動かして、その上にある家を目指している絵のようだ。そのように聞くと、この絵を見た時に思うことは、絶望だ。どうしようもない、どこにも行け場所がない心の乱れが感じ取れる。作者の作品は、よほど空気の中心人が一人だけボツボツと描かれたものが多い。孤独を表現するということであれば、この描き方は十分に成功していると思う。

ここまでで収めること (裏面には書かない)

○印
A (B) C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8226 氏名

山本純輝

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

草原の孤独

一行目

この絵を初めて見て思うのは、手前の女の人が今どういう状況に置かれているかということです。足をくじいて手当てをしてもらうために、地面を這いつくばって家まで帰ろうとしているのか、誰かに追われて民家があるところまで逃げてきたのか、はたまた家を追い出されてあてもなくさまよっているのか。いずれにせよ、この女性には足に何らかの障害やけがを持っているように思えました。奥にある民家までの距離は遠く、草原は広大で、あの民家にたどり着くまでにはかなりの時間がかかってしまうと思います。全体的に感じるのは、「寂しさ」で、奥の民家には誰もいない気がしました。解説動画を見てみると、最初に受けた印象はほぼ解説と同じだったのですが、絵画に秘められた表現方法を知って、なぜ自分は最初にそう感じたのかがわかってきました。草原の広さは手前の女性の孤独な感じを引き立てるために必要な要素だとは思いましたが、手前と奥の草原の色合いが手前は暗く、奥は暗るくなっていることで、一層女性の身体が重そうに感じ、民家までたどり着けるのか心配になりました。この絵画は「女性目線」で描かれているということを意識して見てみると、確かに奥の民家に自然と目がいきますし、自分も同じ草原に立っているように思えます。元物の大きさは知らないのですが、さぞ大きな絵画なのでしょう。この絵画は広大な草原の中にある遠い民家を目指して女性が向かっていくのではなく、この作品を観ている自分自身が民家へ向かおうとしているように思えるほどに、広く、奥行きのある作品だと思います。この作品にほどこされた細かい工夫も、全体に行き疲って、作品自体を引ききたてることのできるのだと思いました。草原をモチーフにした作品は他にも何点か知っていますので、細かな部分も見逃さないようにして、もう一度観てみようと思います。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
A **B** C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8223 氏名

永井 志聖

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

貧しい女

一行目

初めにこの絵画を見たとき、真先に沸いた感情は「貧困」である。きつね色の
草原に横たわる女の人、淡い空、おそらく1軒の住まい。どうしてこの
女の方はこんな場所にいるのだろうか、何kmも何日も放浪してこの場所
にたどり着き、民家を発見したが、もうそこまで歩ける力が残っておらず
横たわってしまっているのだろうか。しかし、そう考察すると彼女の衣服は
きれいな状態でありすぎると思う。それはどうあれ、私はこの絵画を
楽しきや美しき、華やかさ、感動という観点でみることはできず、
悲観的に見ざるを得ない。また、この女の方が背を向けていて、
顔の表情が見れないことで、私がこの絵画を非常に悲観的に
拡大解釈しているのかも知れない。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月 4日

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8241 小野寺海香

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル

向かい先

(1) まるで写真のようにリアルに手前に座っている女性が描かれている。右奥にある建て物を見つめてそこへ行きたいのか、少し前かがみの姿勢だ。まじまじと見ているのか、足がうごかぬのか、足は左側に投げ出して、上半身だけが動こうとしているように見える。女性は薄ピンクの半袖のワンピースで、日差しもあり、暖かそうな雰囲気だ。風も少しあるようで女性の黒髪がなびいている。座っている草原も風にゆかっているように見える。しかしその草原はあまり緑色が入っていない、茶色が多い。ためか、少し秋っぽいような、草原だけが寒そうな感じがする。見つめている家は自分の家なのか、はたまた別の誰か、想いの家なのかどうか、家まで走って行けば「すぐ」に辿り着くような距離なのか、やはりソレの女性はどこか悪いのか、疲れてしまっているのか、そんな哀愁漂うような背中にも見えてくる。誰かにお願いして押しこめられた、そんな格好にも見える。

(2) 映像を見て、この作品がアニメのクリスティーナの世界というタイトルだった。描かれているのはクリスティーナという女性で彼女は、足が不自由で、這いずって丘の上の家まで行こうとしている。タイトルにあるクリスティーナの世界というのはそんな彼女と同じ視線から見た世界を描いていた。必死で丘の斜面を登るのはとてつもない折れるほどだろう。だからこそ、この丘の草原から少し冷めたさを感じとったのかもしれない。アニメは誰か見てわかるような絵を描きとて人気の作家であったことを知った。何気ない風景の説得力にはとてつもない描写力が備わっているからなのだと思う。また、作品を見た人の目の動きまで考え工夫された構図はその絵の意味をより強調してとて計算されていると思った。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日： 月 日

○印

図 A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名

8249 内海優花

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

タイトル

リ帰る家

(1) 右上にあるのが女の人の家

小屋もあるから結構お金持ち?

でもすごい田舎っぽい。まわりが草だらけ

女の人は家に帰りたいそう

でも帰れない感でてる

腕とかあしが復相

この女の人の体勢けっこうつらい

足しびれた日時とかこういう格好してる。歩けない? 疲れてる?

(2) ひっこ!! わりといい線いってた

このキョリを歩いていくのは大変そう

この女の人を消すと、女の人のみている風景になるっていうのが
すごなおもしろい!!

自分の絵柄を説明
 18cmの2行の幅で、おもしろいところをポイント
 詳細に描くために文章化する

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

この用紙は、必要な枚数を自分で
 コピーしてから記述してください

○印
 図 A (B) C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
 8216 佐々木 梨乃

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

放蕩娘

(1) このBの絵を、どこかで見たことがあるとい
 う覚えがあるので、なかなか思い出せませ
 ん。なので、改めて、今回この絵の感想を書きます。
 私はプリントでこの絵を見た時、新約聖書ルカの福
 音書にある放蕩息子の例え話が頭に浮かびました。
 この絵の場面はまさに家出をし、悔い改めて父のいる
 家へ帰ってきた時の息子の姿のようだと感じました。で
 すが、この絵に描かれているのは女性であるため、
 聖書に關係した作品ではないのではと思います。
 しかし、共通する部分を感じました。それは、女性が
 家に帰ろうとしている姿、お腹を空かせたのか、体力
 がなくなったのか、疲れ果てているような姿、そして女性の
 視線の先に家があるというところですね。どちら
 にせよ、空は暗く、女性の雰囲気から、なんだか
 少したけ悲しい絵だなと思いました。

(2) 解説VTRを見て、聖書の絵ではなく、この女性
 が主人公の絵だということが分かりました。丘を
 はいくらす登って彼女の視線の先にある家に向
 向かっているというところは、私が初めに思った
 ことと一緒でした。そして、解説VTRを見て
 私が感動して、面白いなと思ったのは、この
 風景は女性の肩越しに彼女自身の目を凝して、
 私たちは彼女と同じ風景を見ているというところ
 です。この女性と同じ目線で見ると、彼女の心
 情が、この風景の中の風やにおいが伝わってくる
 ようです。

丘を登ってはいくらす家に向かっている。足が息を、彼女の目を通して、ここまで取めること(裏面には書かない)
 実際に家と丘の間に丘がある。ここに書いておく。大層の絵画。01/04/24

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月 4 日

○EP

図 A (B) C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8.236 中島 楽人

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

寝起キ

一行目

この絵は一度見たことがある。画像がお題として出され、それで大喜利
をあるというものでた。そこではこの絵に対して「寝相が悪い」と書か
れており、それを見て以降この絵は女の人の寝相が悪く、起きたら家の
外で寝ていたことに気付くという絵しか見えなくなってしまう。そんな
限定的なテーマを描くのかと思い、違う考え方もしてみた。女性はこの家
に向けて移動していると。いくりくる。起き上がった体勢は歩き疲れて一度
ぐらうとしたのたううと考えれば納得できる。しかし、そう考えてみても寝ている
間に転がるか歩く筈を以て草むらで眠り、起きるとおんなじところに自宅か？と驚いて
いるように見えます。

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8220 中島 明日香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

草原の孤独 (クリスティーナの世界)

一行目

私の初めにこの作品を拝見した時、女性が何かを見て悲しんでいるのかは分かりません。女性は立っていません。座るにしても倒れかかっている状態です。意図は何かがあります。何か草が刈られている状況です。車のタイヤ?の跡も見つけられます。そして、女性は帰る途中に誰かに草を刈られ、とぼろと落ちて草に倒れておきている状況は何か感じました。それが、別の着衣方として刈られているところに家の建物の外で、石が丸くはたいて倒れて悲しむ、落ちておきているのかを感じました。女性の着ている服はとてもシブいでお金持ちというよりはむしろお洒落です。髪の毛も乱れているように感じます。細い体型から食物をよもに食べられている感じが、ある一軒家の家に来るために動かす身体をいじめる感じがその家を目指している一場面とも捉えられました。

実際に調べてみました。絵の題名は「クリスティーナの世界」「世界」ということ。この画面に描かれた、大地と空と、遠くに建家ですが、彼女にこの世界はすべては思いです。タイトル通り、描かれていた女性の名はクリスティーナ。ワイルドの別荘の近くに住む女性にこのことについて聞きました。そのクリスティーナがホリオに冒された不自由な足を引く吊り橋から、家族の眠る基地に祈りに行き、その家に戻る状態を描いたのが、この「クリスティーナの世界」という絵です。自分の身に降りかかった障害を克服するために、クリスティーナは自分がおこなうべき生活を全て自力でやっていた。車椅子の助けを借りる必要はなかったと言います。しかし、この作品には何か、淋しさが表れているのは気がします。その答えは「距離」です。

彼女と自分の家との間には、永遠にたどり着くことができないかと思えるほどの距離感が存在しています。それがこの絵に淋しさを与えています。

作品の意図、説明を聞くことが納得ですが、自分自身で考えてみたら画家は何を思っていたのか知ることが、深く頭にインパクトします。女性の力強い意志の中に作品全体が淋しさを感ずるようなコントラストは、とても面白いものだと感じました。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月 4日

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8243 高松 張那

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
「別れ」 『クリスチーナの世界』 ウィエス

★ 草原に座り込んで遠くを見つめる女性の絵
この女性の視線の先にはほつほつと家がある
だけです。空は曇り、草は枯れています。女性
の服や小屋はきれいと言えものではありません。
全体的にとっても暗く悲しげな雰囲気
の絵だと感じました。あとこの女性は視線の先
に手を伸ばそうとしています。視線の先は小
屋、家族でも住んでいるのかと思います。私
が考えるにこの女性は家族から離れざるを得
ない状況にあるのではと思います。まず彼女
の腕の細さを見て満足に食事をすることができ
ないくらい貧しいと考えました。昔の人は
嫁ぎなどをして家から離れるイメージがあ
るので彼女もそうするしか家族を養うことが
できず、別れるしかないのかなと思います。
その別れの悲しみを表現した作品だと思いま
した。

★ 足が不自由な女性の視線(世界)を描いた作
品ということ、なるほどと思いました。あの
小屋まで自分の力でのぼるのはそれだけの体力
を使うだろうと思います。画面のなかに女性が
1人、小屋は遠くにあるそれ以外は何も無い。
彼女が1人孤独に頑張っている様子なんだなと
思いました。ウィエスという画家は周りにある
ものをモチーフにしたということ、目のつけ
どころが独特だなと感じました。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月4日

○印

図 A (B) C D E F

点を提出しました

学生番号 8217 氏名 田中 ことの

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

クリスティーナの世界 アンソニー・ワイズ

この絵は嫌。きれいだけど、きれいなものは大嫌いだけど、これは嫌
 しい。二人など三人にへたりこんで、未練がましく家を見上げる女性なんて嫌
 しい。いつまでもここに這いつくばっていつまでも誰もあなたを捨てないでくれないか
 めいそうたつとも思われないよ。古い家に住みつくても、父性はあなたを守らな
 ない。隷属も強いるばかりで、彼女も彼女自身として生かすつもりない毛頭ない。
 この絵を見て、音読して、読みきれなかったエミリー・ブロンテの嵐が丘を思い出
 した。灰色で、暗くて、退屈で。悪意と、呪いのような言葉。この土地が、家
 が彼女に望んでいいることはただ従属だと思えます。私は彼女を逃けてほしい。
 このままここで生き続けても、彼女の期待に沿うことはきっと何一つ起こらな
 ない。彼女を、こんな、荒野に打ちこみおぼたような気持ちにさせた世界が彼
 女を守るはあがない。いつまでも、古くて強いものに守られようとするのはやめ
 るべきです。庇護を待つ女性なんて、何にもならない。彼女は立ち上がり
 て、家や土地や父なる何かを捨てて歩いていくべきです。

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8221 上林 奈央

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
帰路に着く

一目 構成がシンプルで、なおかつ描写がリアルであったため、第一印象と、じっくりと鑑賞した後の印象に、そこまでの差異はうまれなかった。一言で表せば、つらい。一人の女性がこのような態勢で丘の上にある家を目指しているようなのだが、道のりは遠く、そこにいように見えるが、実際歩いてみるなら結構途方も無い距離だろう。しかも女性はほとんど力尽きているように見える。ここまで道のりで疲労困憊なのか、それとも足を怪我しているのかはわからないが、とにかくそう簡単に丘を登りきれるとは到底思えない。こちらに背を向けてはいるが、心底辛い表情をしているのだろうと容易に想像できる。周りに手を差し伸べてくれる人物はおらず、ただただ農場が広がるだけだ。そんな酷な状況の中でも、女性の視線は丘の上の家へと向けられている。どうしてもたどりつかなくてはいけないのだろう。あれは、女性自身の家なのだろうか、それとも恋人か誰かの家なのだろうか。何となくだが、私には前者に思える。女性が帰路に着こうとしている場面のように思えるのだ。女性の細い手足やみずほらしい格好がこの農場にマッチしているせいもあるだろう。遠く離れた他人の家に来て来たというよりは、何らかの苦業を終えて家に帰ろうとしているような風に見えた。（解説を見た後→）作品解釈と私の感想にあまり差異がなく、作者の表現力の高さを感じた。細かい設定から言うと足はうまれつきで不自由であり、身体が細いのはその病気のせいであるように感じた。そんなところとのそくと、見えない彼女の表情や家の持ち主まで初見でも簡単に想像できて、非常にわかりやすいなと思った。そのわかりやすさの裏に、視点やモチーフの構成の念入りの計算がうかがえて面白かった。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8229 梅津椿有

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

無題 「自分で考えた。」

① 全体的に暗い印象を初めにもちき。今にも雨が降るといふ空に、地面は枯れた色をして、空虚なイメージ。その人の髪は乱れ、後ろ姿だけを見ていると涙を流しているような悲しい表情が思い浮かびます。遠くにある家も人が住んでいないと思えないうような感じで、この作品の中で生きていく人が女性だけ、もしくは生き物がいないのではないうような恐怖を感じた。その人をもっとよく見てみると、腕や肩まわりに肉がついていない。骨と皮だけ、たろろと二重皮になってきたりという限界がきている様子が見える。貧しい暮らしをしていくに食事は足りていない。

② 足が不自由な少女を草原の中に描き、本当にそこで見た光景を描いているかのように見せようとした作品はどれも写実的な要素があり服のシワ一つ一つにも意味がありそうに感じます。少女だけではなくおばあちゃんというのには驚きです。勝手に少女だと思ってしまうだけでおばあちゃんの細さは病気にあてなってしまうもので、貧しい暮らしとは程遠く感じました。愛されて育ったようにも見えないが、スクリーンで見た感じだと、良い服を着ているので、おじょう様なのかと、足が不自由だと知ってからもう一度の絵を見みるとかわいそうという感情が生まれます。足が動かかせないのび、腕の力だけで丘の上に行くのは普通の人でも大変なことでは。本当にあったのは背景だけで、女性も合成という言葉の方が正しいのかわかりませんが、合成とは思えないほどの臨場感があり苦しいという声は今にも聞えてくるような。少し前に出てくる左手が前に前にという風に見えないかまた応援をしようというように見えます。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日 6月 7日

図

○印

A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8207 高木 梨帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

クリスタルの世界

第一印象は、もろちでに農作物は刈り尽した後で、
「落ち穂拾い」と似たような風景だなぁと思いました。また、
人物と小さい建物だけで情報量が少なく、見易いという印象
を感じました。

しかも、ほっきりとした色で、ぼんやりとした広大な野原を
迷わせる性質が随いつとびつて必死にたどっている場面と考えました。
女性の色も、アウトラインはしっかりと描きこみ、存在している証
のようだなと感じました。

枯木とぼんやりとした野原、また黒い家が暗く色のない未来の
ように見えます。また、家に着に着ていながら月標、だんだん、遠く近づいて
いくように感じました。

野原の色の変わる部分があるで、11分まで切り取られていて、
自分はその未来に近づくとさえ不可能であること、目に見える
ようにほっきりと現実に突きつけられているように感じました。求めて
いる状況から抜けだせぬ感じがします。

とちども、一番新しい月標に向かっていると、どんなに疲れていると近づ
いてくる女性。その常気を追い込めぬかのように、大地の裂
け目が現れ、遠くから見えるだけだったが、家に少なからず近づ
いてきて見えるようになる、とちどもさらに絶望しているように思っ
ます。女性の背中が悲しさを物語っているようにも見えます。

前回習った「落ち穂拾い」のように悲哀な場面を表している
のかなあと思いました。

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8205 横谷 梨穂

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。
1711スケッチの世界 (3Dプリンター-ワイヤ)

空はくもっていて、全体的に色がくすんでいけいかにとでもさびしく感じます。女性がいけ場所の色的に畑(三線の落穂拾いを思い浮かべました)のように見えたのですが、荒涼感から手入中のさびしい野原なのだと感じました。たかさん毛糸が描かれているわけではないので、より女性とその先の家の存在感を強く感じます。また、女性の着ている服が暖かみのある桃色の服で、さびしい雰囲気も少しやわらわらしているように感じます。坂にいかのようだが、家や坂の上にあかように見え、そのことで家やより遠く存在があり、女性にとって何か圧力をかけている存在のようには見えました。また、野原の中でもあかラインから草が刈りとられている場所があります。そこまで坂の上の家の領地なのではないかと思ひます。

私は女性はいか坂の上の家の住人であつたのではないかと感じました。女性はいか手を家の方へのはかそうとしていて、家に執着しているように見えます。家を見つめるその後ろ姿からはさびしさを感じられません。そこから、女性はいか自分から家を出ていっただけではない、追いかされたのではないかと感じました。理由はわかりませんが、ポーズから、早稲穂であつたのではないかと判断してしまひます。服の色も明るい桃色です。スケッチを消そうとしている資産家の家とそこの元住民、というのかこの絵から想像するおこです。

私は上つていっただけには見えなかつたので初めは「？」と思ひたのですが、足が不自由である、ということに納得しました。女性を正面から描いたのは彼女と同じ視点で見つため、というものがおこ思ひました。一人称視点で描いて表現するのではなく、二人称視点で広い視界で描くことで、1711スケッチ自身とこの視界とらも表現することができているのではないかと感じます。田舎に住む、風景と人物を描きつづけているのは、そこを愛したからなのかなと感じました。作者自身の絵画内で視線を誘導させるための工夫がとてさびしく、こういう技術があるのか、と勉強になりました。あか、私の解釈と絵の内容が全然違つて若干恥づかしいです。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日： 6月4日

○印
A **B** C D E F

6 点を提出しました

学生番号 氏名
8215 田島 梨

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
クリスティーナの世界

(1) 足の使えない人が、画面右上の家に向かって、いる様子なのかなと思いました。硬そうなお草も混ざりながら手をついて身体を引きずるのは、手の平が痛くなりそうだし大変だろうなと思います。又、この女性の腕が非常に細い事も気になります。このまっ白い腕でどこまで遠くにある家を目指すなんて、考えただけで気が遠くなります。ただ、この画面からは、どのような大変な事に対する 々としたものを感じませんでした。むしろ、家に辿り着くことのまっすぐな希望のようなものを感じます。不思議です。野原が鮮やかに青いかといえば決して青くはない、空も爽やかに澄み渡っているかといえば全くそうではないのに、女性のワンピースの可愛いらしいピンク色のおかげなのでしょう。分かりませんが、とにかく私は、この切実な後ろ姿を見て、哀れみよりも先に、単純に応援してしまうのです。こちら側からは見えない、女性の顔に浮かぶ汗と、家屋を映してきらめく瞳を思い浮かべながら。

○印
図 A **B** C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8203 姉崎 由奈

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

クリスチーナの世界

美術感想文の絵の一覧を見て、一番惹かれたので、まずはこの絵から感想文を書こうと思いました。最初は、なぜこの絵に惹かれたのかについて考えてみます。私自身の原因としては元々女の子の絵を書くことが好きだったので、女の子が描かれている絵に自然と興味をひかれたのだと思います。また、その描かれた少女がどこか寂げでかなしそうな雰囲気を感じていたため、この少女はなぜ悲しそうなのか、その理由を考えてみたくなったというのもありました。

絵をぱっと見たとき、桃色のワンピースを着た少女が前方に倒れてしまったような体勢から向こう側に何かが行ってしまい、それを見つめているように思いました。少女の髪の毛の動きをよく見てみると、絵の右側に向かって風が吹いていることがわかります。絵の中に飛んでいる物体などは見つけられませんが、絵に入りきらないところ、絵の外側に飛んでいってしまったものがあるのでしょうか。少女の視線は画面右上に向いているので、そのあたりにあるのだと思います。では、その物体は何だったのでしょうか。私は少女は草原に座っていたが、いきなり強い風が吹き、元々被っていた帽子が飛んでいってしまったように見えます。さらに、少女の服は軽装で涼しそうです。きっと、帽子は夏から帽子なのではないのでしょうか。だから、私は帽子が飛ばされてしまったから悲しそうな雰囲気を感じたのだと思います。

解説VTRを観てからの感想を書いています。私には女性の足が不自由であるという発想も、少女ではなくそれなりに年を重ねた女性であることも想像するところがありませんでした。私なら題名を「帽子」としてあげたいと思いますが、全違いました。ただ、寂げでかなしそうな雰囲気は彼女の足は動かないことや、私ならすぐにたどり着きそうな家にも長い時間をかけなくてはならないところから出てきたと思います。ただ本人はそれをつらいつらいとは思っていたかはわかりません。ワンピースはきっとそれを悲しくつらいことであると捉えたのでしょう。また単純に見える家々と女性の位置関係や草原の境目も、単純だから、さ、少しでもずれてしまうと印象が大きく変わってしまうことに気がつきました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日:6月4日

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8210 氏名
自信 堂理沙

タイトルの欄
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
目覚め

一行目

私がこの絵を見て思ったのは「この女の人は寝起きかぐしど
かいか」ということだ。この絵を草っほで女の人から立ち
上がりうとして目線と上げてたところ(彼女の顔が見えた、とい
うストーリー)がある気がした。草っほは黄色で季節は秋を連想
させ、空はくもりで月がまぶしいわけでもなく、雨がふりうたわ
けでもない。よく見ると女の方は半そでで、気温は割とあたたかい
ことかうかがえる。つまり昼寝日和なのだ。私だったらこの状況に
置かれたら確実に寝る。彼女が寝ていたという証拠に、前髪は
後ろから見ても生えているし、後ろに束ねた髪の毛もあおむけに寝て
いたせいか、下向きになが、という気がする。でもこんな心地良さう
た天気なのだから、寝てもしょうがない。きっと彼女は、幸でも不幸でも
無い、記憶の羅列のよう夢を見たに違いない。そしてほてして
目が覚めて今、自分がどこに居るのか確認する。自分の家が思い出。
ああ、夢だったのか。と安堵した瞬間を根拠に絵がのた」と思った。
私もよく夢を見る。大体は昔に行ったことのある場所や、昔の友
達、先生、教室、色んな要素がごちゃ混ぜになって新しい一つ
の形になって、私の目蓋の下にうつし出される。自分の都合の良い
ように組み合わさって、たこやかの目覚めを迎えるときもあるが、
そうとはいいかないときもある。ほてして目を開けたとき
見えた天井が見えたと安心する。周りを見まわして自分の部屋だと確
認し、安堵のため息をつく。私はこの絵における女性の背中も、
自分の家を見て安心している平和な背中なのだと思う。

○印
A B C D E F

4 点を提出しました

学生番号 8244 氏名

佐々木 文峰

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

渴望

一行目

この絵を見た瞬間、まず不安な印象を受けた。それは女の人の姿勢だ。体の向いている方向から察するに、家に帰ろうとしているのだろう。しかし彼女は歩き出そうとするそぶりを見せずに座ったまま手だけを前へ出している。まるでほったいくかのようなのだ。彼女は歩けないのだろうか。そう考えると、彼女から家への距離も不自然だ。歩けない彼女には遠すぎる。それがまた不安を感じさせる。これらの要素から、この作品は現実の場面ではなく、作者が彼女自身の心を描いたものではないか。仮に彼女の心として捉えてみる。家との距離感から、彼女はそこの住人(家族)に対する何らかの不和から疎外感を持っている。...いや、本当にそれだけだろうか。今一度解釈を疑ってみる。彼女は遠く離れた家をもっとすぐ見つめるかのように頭を上げ、できる限り前へとその細い腕をのばしている。彼女は家に住む彼らに心の壁を感じつつ、それでも関わりたいと思っているのではないか。彼女の「一見不自然な姿勢は痛かなく」と語り立てられているのではなく、少しでも近づこうと歩みを進めようとしているものではないのか。そう思った時、この絵から「人への不安」ではなく、「人としての美しさ」を感じた。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月 4日

○印

図 A **B** C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8212 氏名 安藤 美羽

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

自分で考えたタイトル 「原点」 / ワイエス 「クリスティーの世界」

1行目 **最初の感想** この絵を見て最初に感じたことは、恐怖である。草原に女性が1人倒れており、遠くにある家を見つめていると捉えられる。まっこの家は女性の住んでいた家ではないのか。家に帰ろうとしたか、何かの原因で帰れなかった。また、この先も帰ることが出来ないのではないかと感じてしまう。それは広い草原から得るイメージと足を引まかり立ち上がることの出来ない様な女性の姿から得るイメージからだろう。今まで生活してきたであろう家に帰るといふ何となく当たり前である日常が崩れた瞬間のようなものを私は感じとり、それが恐怖であった。この後に女性は怎么样了のか。先の想像を観る人にさせてしまうような作品であると思った。女性の髪が少し風にびびいているのが見える。静けさを感じる女性の心と草原に吹いていると思われる少しの風が、絵により一層虚無感を与えている。

解説を聞いて 確かに女性の目線と私達の目線は同じであると思った。女性の顔が全く見えないので心情は察しにくい、絵の中の人物と同じ目線に立るといふのは貴重な体験であると思う。

家が二軒あることで女性と家二軒の間で三角形が出来、絵を見ると主に動まが出るというところになるほどと思った。1つ1つの構図がシンプルに見えてとても工夫されていることを知ってこれは作者に説明してもらわなければ、まじと伝わらないことだなと思った。

草原に女性と家があるだけの絵、ではなく、それだけで構成されているからこそ、互いの位置関係だだりの響き合いが計算しつくされているのかも知れたいと思った。他の作者や作品がどの様な計算をしてまたかも知りたいと思った。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日 6月4日

○印

A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名

8227 那須 朋果

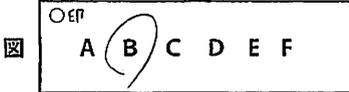
タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。」と記載されている。

故郷

(1) この絵を見たときまず手前の女性が目に入った。とんでもないほどの精密な描写を。服のしわ、髪の毛の一本一本まで細かく描かれている。そしてその女性がほらっている草原も一本一本草が丁寧に描かれている。この絵はたくさん時間をかけて描かれたのだなと思った。そしてこの絵の印象にふたつだけ、なにが悲しいものを私は感じた。それが草原にその人がほらつくばっているという時点で、なにか「ジャリッ」なバックグラウンドは想像できな。それに空模様は雲でこれもまた不穏さをただよわせている。なぜ彼女は草原の中でほらつくばっているのか。彼女の視線の先に家がある。彼女の家だろうか。私はこの絵に描いてある家は彼女の家だとは思えなかった。おたはずの家が無くなってしまったというふうに感じた。なんらかの理由で遠く家から離れてしまった。何年という期間を経て、髪が乱れるほど火死になって自力で戻ってきた。故郷に戻ってきたのに自分が住んでいた、長年家族と暮らしていた家は家族と共に無くなってしまった。彼女は絶望しその場にへたり込んでしまった。そういう絵のように見えた。女性の腕が細いのを長年まともな食事がとれないほど貧困に悩まされていたからではないかと思う。

(2) 解説を聞いて、ほらつくばっているようには見えないというふうにして思ったのに、手の泥に気がついて確かに言われておれほらほらしているように見える。下半身が動かないという話も、力が入っていないというより入ることができないふうに見える。そういうふうに見えたから力なくへたり込んでしまったという様子に見えたのかもかもしれないなと思った。丘の上を目指した女性の気持ちを表した絵だということも空が曇っていてなにやらあまり良い雰囲気をしていないことは突然彼女がうしろしかかっていることを表現していると思うし、それを彼女の背面から見ることでこの絵を見ている人にも訴えることができるのは良く考えられた構図なのだなと思った。実際にこの風景を作者は見ているのにこのような絵を描くのは彼女の足についてとて不燃に感じていたのではないかと思う。

ここまで収めること (裏面には書かない)



学生番号 8233 氏名 越浪 実柚

タイトル

独り

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

(1) 完結に言うと、この絵が表しているのは「孤独感」ではないでしょうか。まず目に入るのは倒れて(?)いる女性です。周りは広大な草原に、せまいうす暗い空、遠くにある数軒の家(小屋)。その中で少しだけ不自然に感じるのは、この彩度の低い色味の中にある女性のワセロスの服の色であるピンク色でした。ピンク色が使われているのにどこか淋しさを感じるのは、女性の表情が見えないこと、倒れていること、枯れた色の草原が相まったからでしょう。私はこの絵をみて、「さみしい」と思いました。この絵から数軒の家は身近な存在(人?物?)が離れていってしまうような、この狭くて薄暗い空は、未来が根元ない恐ろしさ、そういったことを想像してしまいました。

(2) 「クリスチーナの世界」 アンドリュー・ワイエス

「この女性が、丘の斜面をはいすつて家へ行こうとしているのを、自分が見ている図」ということで、足の悪い女性という細かい設定までされていることにおどろきます。この図がはいすつていようには見えなかったけれど、悲観して倒れているものだと思っていたので、どういった経緯ではいすつて家を見ているのか気になりました。運ぶのを手伝いたいとは思いました。

また、講義のお話で、女性と家と軒が三角形に配置されていることで、視線を様々な方向へ動かすことが出来、画面にも動きを出すことができるということも私も見習いたい技法です。それが私の作品で一番まうところなので参考にしたいです。

広い草原に1人人物がいるという図がアンドリュー・ワイエスの特徴というので、どうストーリーを考え、構図を決めて、そこで写実を以て仕上げるというのは、講義でも学んだ作品制作の利貞に沿っているのかな?と思ひました。

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8201 氏名
稲辺みのり

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。
自分で考えたタイトル：絶望の中の希望 → 「クリスチーナの世界」

一行目 パッと女性に目が行きます。この女性 は悲しさのふたさびしさのふたさ、
またスガ氣持ちを抱いていることを感じました。地面にカチに座ってい
て、無力さを感じます。着ているものが質素で、髪の毛も乱雑に結われて
いて、更に体もやせ細かいて、復しいんたゾウたあと思ひます。自ら座った
のではたか、力が振れて立てたにくたつてしまつたよネ体制に感じられ
たので、体にも力が入らたにくたる程健康状況が悪い、食ベること
が困難たはた復困に苦しんでいるのかたあと思ひます。この絵はど
のふた絵たんたゾウと考へたとき、私が思ひついでストーリーが2つあり
ます。女性が目を向けている方向で違ふのであが、1つ目は遠くにある
家を見ていた場合です。あの家から追ひ出されてしまつて、帰りたいとモ
帰れたいのかたあ、とか、家の中に何か思ひ人が居てやて来たはたかた
たしまつたのかたあ、とか、遠くにある家の中に住んでいる誰かとの関
係を描ひていると思ひました。2つ目は空を見ていた場合です。空を
見ているのたは、神に縋っているのたと思ひます。生活が苦しい女性が最
後の力を振り絞るふたに神に祈っているふたに見ましました。私が
この絵で表しているのはど「ちらか」というと後者の方だと思ひます。この
作品を見たのは初めてで、どふた時代背景があるのかはわかりま
せんが、何れにせよその國の全体が復しくたはたてて神にすがりたい思ひてい
た民衆の思ひをこの人の女性に重ねているのではたかと思ひます。しかし
空も雲り淀んでいて、あまり希望を感じられませんでした。

ずうと草原が系統いていて、画面のほとんを占めていて、画面に
抑揚を感じられます。それは、黄土色の草の中に青やグリー、オレンジと様
々な色を使って手前(特に右側)からスーと奥に向かつて淡くたつてあ
り、草のタッチの強さでもワラテーションのふたにたつていて、空と地面
のトーンの差がはたまりしていて、りすることがあると思ひます。

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8255 氏名 成田 佑香

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

タイトル 求めた 「クリスチーナの世界」

一行目

男に逃げられた瞬間を切りとったようにしか見えるが、きっとそれは女性のポーズ
によるものだろうと思い、少し反省をした。

でも11Pに描かれた女性の視線は画面の奥に向けられているが、別に
奥に何かがあるように見える。家や柵はあんなに

私ならば、女性は何を見ているのだろうか？

平原の広大さ、その距離が、女性と目的との相りの差が、とても大きくみえる気がする。

決して、その差は心の相りも表しているのではないかと考えた。

全体的な色の暗さ、不安定さから、幸せで温かいがあるように感じ取ること
はできない。やはり、何かは女性の元から離れていったのだろうか。

すがりつく、追いかけてよとしている左手の表情から、そのように感じてきた。

何を求めているのだろうか。愛する人がほしいし、自分の妻がほしい。

もしくは、失った幸福をのりもしている。遠くで家が描かれている点も、何か理由が
あるのだろうか？ この女性は、おいていかれたのだろうか？

しかし、画面の暗さからは、どうしてこの女性の心情が、明るくはたとは
思えないと、思っている。

シンボリックな感じの絵だとは思っていたが、それはワイエスの目に見る範囲の景色を
描いたものだと知り、また、女性が丘を歩いている様子だと分かり、

その（深い意味での）シンボリックで素ほくを感じ、私は好きだと感じた。

しかし、女性と家や柵との位置関係、構図はしつかりとされている。

見る人の目の動きがどうあるかを考えられている点にはワイエスのすごさを感じる。

加えて、決してたどつたばかりの景色の広大さも絵に表す所にも、

シンボリックでおもしろい、考えつくされていると、思いました。

そして、足の不自由さ（女性の）を（私は）とらえることができなかったが、

解説を含めて再び作品を見ると、心が挫けていくような気持ちにさせられます。

○印
A **B** C D E F

□ 点を提出しました

学生番号 氏名
8209 吉野 萌美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を添削する。
風の道 (ワイエス) 「クリスティーナの世界」

一行目

置いていかれたのが、助けを待っているのか、女の人は一人きりだ。見ているのは遠くにある家か。はたまた異くよとんていう空のなか。恐らく、女の人は歩くことのできない状態であり、今しかた何からの異変の気がして、逃がれようとしているところだと思ふ。女の人のよく見ると、不自然な姿勢をしている。座った状態で後方に体をひねり、左手は少し浮いていて前方を挙げてかけている。立ち上がる前には足がそろいずきな気もする。周囲が何となく原っぱであるのを見ると、この土地にはよく台風が起ることかもしれない。風が強いのも女の人の髪がなびいていることが解り、又手前と奥とで草の色が変わっている。もしかしたら、台風の爪跡かもしれない。いや、台風というお竜巻に近いのかもしれない。台風から来ることをある程度予測できる。それなら女の人は外にいても無かたたら。家の中でおとなしく過さるのを待たせよう。

解説

背を向けた少女が丘の上の農家を目指している。目指しているのだが、はいずっていつかとしている。しかし、この光景は女性目線だ。この光景から少女をとり除いた時、この絵は少女目線で見た光景となる。こうなると、存外丘の上の農家が遠くにあることがわかる。この文で私はクリスティーナを少女と書いていたが、実際彼女はもう歩くことのできない老女である。ワイエスの描いたスリッパを見ればわかる。又、ワイエスの作品には、1作品につき1人しか人物が登場しない。

クリスティーナの世界では、木、家、人物によって画面の中に三角形が作られている。どれか一つが欠けても、絵のバランスは崩れてしまう。この絵はそれ以外の構図の面でも綺麗に作られているのだ。

ワイエスはアメリカの農場の風景をよく描いていた。絵になるような場所ではなく、日常の一部としてある「農場」を切り取って描いていた。

しかし、ワイエスの場合切り取っただけでなく、その場所の存在感を最大限生かして、見る人に訴える絵を描いていた。

○印
A B C D E F

□ 点を提出しました

学生番号 氏名
8214 長井 千佳

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
「クリスティーナの世界」

-178

女の人の細い手首が痛々しい位に白く、枯れ草のように茶色い草原の上で家を振り返る姿は何かを追われているような切迫感すら感じさせる。広大な草原がどこまでも続いているかのようだ。家と女性の距離感が、かつて女性にあった出来事や思い出、家にある歴史やそれ以外の何かを思い起こさせ、誰にもわからないストーリーを抱えているように感じる。女性は家に戻りたいのではないだろうか。もしそうであるならば、なぜ泣いて思いとどまる必要があるのだろうか。彼女にとって、彼女の視線の先にある家は、彼女自身が求めていたもののはずだ。この女性と家の距離が近かったならば、彼女の追憶や孤独感は生まれまいだろう。反対に、より遠い距離であったならば、彼女の心も家からもっと遠ざかったであろう。建物と人物に距離以外の“距離”を感じる。それは、過去や現在、もしくは未来の出来事、幸せな思い出、または悲しい思い出、あらゆる出来事を集約されて生まれた距離ではないか。絵画の中の女性が家の方を振り返るまでに、何かが起こったのではないかと思わせる距離感、全てを吸収した女性の視線。この絵画はどの位の距離から描かれているのだろう。作者もまた一定の距離から、この女性と家を眺めているはずである。女性の足は、あくまで前方を向いたままであるが、上半身は後方を向いているので、本当に“戻りたい”のが、“帰りたい”のが、ただ思いとどまっているだけにも感じる。女性の目線で鑑賞をするのなら、この絵画は女性のあるべき姿を考えさせるだろう。女性が家で家事をし、男性が仕事をしに外へ出るという昔の家族形態に疑問符を打っているようだ。詳細を調べると、この女性は足が不自由で、丘の上の家へ向かって登っているといふので、全く想像できなかったことに驚いたと共に、家へ向かってはえざるようにして必死になる少女を思い浮かべ、少女の存在に深い意味を感じた。架空の物語とは思えないリアリズムに満ちた世界観だが、草原に佇む家で、足が不自由ながらも懸命に暮らすクリスティーナのカ強さを感じずにはいられないだろう。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月3日

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号

氏名

8206 酒井 李果

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

シンデレラ → フリスチーナの 

一行目

枯れぼけた草原に横たわり、その先にある家を見つめる女性。私はその光景を見てすぐにシンデレラを思い出した。しかし、本編の物語の中にはこのような描写は存在していない。この作品の作者が考えてつくった場面はどのようだったのだろうか。初めてこの家につれてこられたときの描写はどのようだったのか。女性。背中からはどこか悲しさと絶望感が伝わってくる。母や姉からのいやがらせと大量の雑用でうめつくされた生活。奥に描かれた家に住まなければならない、しかしその環境は決して恵まれてはいない。様々な不幸をこの絵全体の暗さで表現しているのではないだろうか。この絵には人はもちろん、動物も女性のまわりに描かれている。広い面積を占めている草原の中に家と女性しかいないところを見ると、さらにこの女性の孤独感がぐいすと感ぜられる。ただこの女性は両手で上半身をしっかりと支えている。肘が曲がられているところを見ると手に力をこめられていることがわかる。辛く中でも生きる強さを表しているようにとても印象的だった。

解説を
ポイントから

この少女が足が不自由だとはいふ全く考えなかったため、意表をうかれた。私は絶望した様子であると感じていたが、そうではないから。ただ、私が感じた、少女の手に伝わる生きる強さというものは、少女が丘の上の家に向かって一生懸命に進んでいるかと思えるかと思えるか通るものがあるように感じた。ただ一直線に家を見つめる様子からは、どうしても何かして、たどり着きたい、という意志が表現されているように思う。足が不自由、というハンデをもちながらも、一歩に進んでいく少女の様子に、努力している人の美しさ、清らかさを感じることができ、まわりに生き物がいないのは、そんな少女一人にぴたりとポイントが合せているからではないかと思えた。孤独さを感じてはいたが、この絵が表現されたものを知らずと一気に印象が変わった。ただ私は、この場面を知って、ひとつ疑問に感じたことがある。少女一人にポイントを合せているのは理解できるが、なぜ丘の上の建物は1つだけ描かれたのだろうか。この絵は彼女目線であると話しているが、彼女は1つの建物しか目指していないのだから、建物も1つの家のお描けはよからずいではないだろうか。作者があえて描いたのかもしれないが、その不思議さが、この絵に深みをもたせているのではないかと感じた。

ここまで収めること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月4日

○印
図 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 氏名
8225 伊田光里

タイトルの作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

郷愁 (解説VTR見てせん。)

17日

私はこの図を見て、次のような物語を感じた。

図の女性は、右奥にある家の持ち主もしくは娘である。女性の、痩せ細り髪なども荒れた様子から、今の生活がとても厳しいものだと想像できる。右奥の家には、平穏さや郷愁を感じた。

家の周りの草は刈られていて、少し明るく表現されていることや、女性が家を遠巻きに見上げ精神的に「届かない」ことを暗示しているように見えることから、代採された芝生を境にして、時間軸の違う世界が描かれているのだと推測した。右奥の家は女性が昔幸せに暮らしていた家、今は状況が変わり経済的に苦しく、昔の生活を羨ましく思っている女性である。

私はこの絵のテーマを「郷愁」だと考える。それもしみじみとしたものではなく、羨ましさなど激しい感情を伴う懐かしさが籠っている。

しかし、家の近くにあるもう1つの家の存在が気になる。色も薄暗く、明確な形が見えてこない。私の解釈としては明るくあって欲しい位置で、不穏な印象を与えている。しかしこれは、この家を目立たせないための、作者の技法だとも考えられる。女性の視点で、右奥の家に、鑑賞者の視線を持っていったからたのかもしれない。

それ故にこの絵は、決して手に入らないものを懐かしみ、嘆く女性を描いた絵だと考えた。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日 3月4日

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8202 山館 未来

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

すがり手。

タイトルがあまりしっくりと思いつかなかったので、手の表現が一番目がしっくりというタイトルにしました。この絵は背景を知らないで考えながら描いたなど正直に思いました。最初に気に入ったのは、全体的にグレースのトーンが入っていること。どんどんと、あまり肯定的な絵ではないのかなと思いましたが、遠くの家があって、女性がそれを見つめているような構図から女性はあの家に未練があるのかなと考えました。また、歩いていけは良いのに足はうごめかそうとしていなく、手のみかしのぼりしていることからもしかしたら足が不自由なのかなとも考えました。一番草花が空をどんどんと空気が演出するのに役立っているなと感じました。解説をきいて、自分の考えているように足が不自由だったことに納得しました。「彼女の視点」の話をして、なるほど...!と思えました。この空気が彼女の心情を表しているのだから納得できるなと思えました。ワイズは、心情を絵に表すのがとても上手いと感じました。私も心を題材に描いたりするので、見習いたいところ。また、他の人では描こうと思いがたい題材を選んでいたりして、他の人とは違う視点を掲げているのかなとも思いました。今後、ワイズの作品を色々見て勉強したいと思えました。全体的にあゆみ色と影のコントラストがパキッとしていて、まるで水彩画のような色使いなのとも感じました。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
A B C D E F

□ 点を提出しました

学生番号 氏名
8208 横谷ゆき乃

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

家路 ② クリステーンの世界

視線が誘導される絵という印象を持ちました。最初に目に入るのが女性です。画面の下、つまり手前側にいるというのがありますが、野原の彩度、明度の低さと女性の服とのコントラストにより手前にいる印象が強まります。そして、その女性の体の動きが画面左下から右上に向かっていることに加え、視線も画面右上に向いている為、自然と視線が奥の建物へと流れていきます。また、地平線が傾いているのも視線を誘導する大きな要因になっています。この女性は、恐らく奥の家の住民だと思えますが、なぜこんな所に倒れこんでいるのか、疑問です。髪の毛が乱れ方や落胆したような絶望したような雰囲気から「帰りたいのに帰ることができない」というような何かを感じます。どこか遠くから歩いてきてようやく辿り着いたけど、もう少しも動けない、という風にも見えるし、「もし帰っても家の人を私を許してくれないだろう…」という風にも見えます。どちらにしろ、ようやく芽生えた喜びが大きな絶望によって一瞬で打ち消された、という印象を受けます。

↓解説を聞いた後

この女性が下半身麻痺していることや、画面全体がこの女性の視線が見た景色と重なっているという解説を聞いた上で「クリステーンの世界」というタイトルを知りました。そして、この野原や家、空、雲などの狭い範囲がクリステーンにとっての世界の全てなのだなと納得しました。初めて見た時に視線が誘導されるということに気付きましたが、2つの小屋と女性の頭の3点の間で視線が動くことや、草を刈った跡と女性の体の動きが呼応しているということには気付きませんでした。